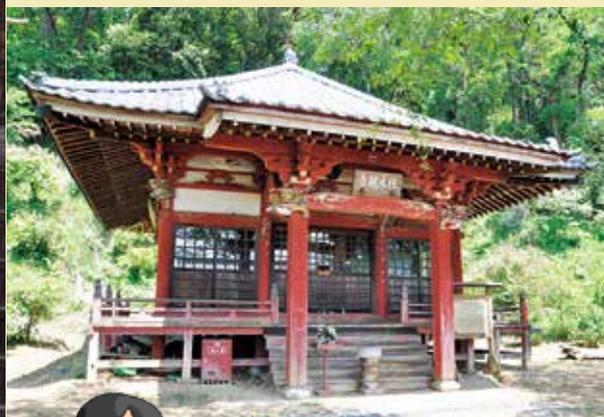


# 桂木観音堂の平安仏 千手観音が88年ぶりにお披露目されました！



5月30日、大字滝ノ入にある桂木観音堂の本尊である千手観音が、本堂の厨子から屋外へ出されました。わかっているかぎりでは、過去に厨子から出された記録は昭和6年（1931）の『埼玉県誌』編纂時であり、実に88年ぶりのお披露目となりました。



↑ 桂木観音堂



歴史民俗資料館では、この機会に町指定文化財である千手観音の現状調査を実施しました。桂木観音堂の千手観音は、像高197cmの大型の立像で、腐朽が進んでいるものの、今から1000年ほど前の11世紀（平安時代）に造像されたものです。

滝ノ入の桂木地区には、ほかにもさらに古い10世紀（平安時代）作の僧形坐像や、埼玉県内でも最古に近い伝釈迦如来坐像（県指定文化財）などの仏像群があります。

平安時代の桂木地区には、いくつものお堂が建ち並び、僧侶たちが行き交う霊場として、山を信仰する仏教文化が花開いていたことを物語っています。



でんしゃかによらいざそう  
伝釈迦如来坐像



そうぎようざそう  
僧形坐像



現在、千手観音は、お堂内の厨子に戻られています。お堂の前からの拝観をお願いします。



問 毛呂山町歴史民俗資料館  
☎ 049 (295) 8282